

エジプトにおける保育

— JICA 技術協力プロジェクトの取り組みから —

松原 敬子

Childcare in Egypt

— From the approach of the JICA technical cooperation project —

MATSUBARA Keiko

独立行政法人 国際協力機構は、2017年6月より、エジプト・アラブ共和国において、「遊び」を通じて子どもたちの豊かな成長を支援する保育・幼児教育を対象としたプロジェクトをスタートした。教育・人材育成が国造りの基礎であり、未来に平和と繁栄の社会を築くため最も重要な事業であるとの信念に基づき、「エジプト・日本教育パートナーシップ (Egypt Japan Education Partnership: EJEP)」の下、技術協力プロジェクトとして、保育者向けの研修事業や教材作成、また保護者啓発などを通し「遊びを通じた学び」が、より多くの子どもたちに届けられようとしている。エジプトで行われている「就学前教育の質向上のための技術協力プロジェクト」の取り組みから、日本型教育の海外展開に対する期待を概観した。

キーワード：エジプト、保育、遊びを通じた学び、JICA 技術協力プロジェクト

1. はじめに

独立行政法人国際協力機構（以下、JICAと表記）は、2017年6月より、エジプト・アラブ共和国（以下、エジプトと表記）において、「遊び」を通じて子どもたちの豊かな成長を支援する保育・幼児教育を対象としたプロジェクトをスタートした。1998年以降、エジプトには70名以上の青年海外協力隊が保育・幼児教育の領域に派遣され、「遊びを通じた学び」をエジプトの子どもたちに届けてきた。青年海外協力隊がこれまでに残してきた成果は、「エジプト・日本教育パートナーシップ (Egypt Japan Education Partnership)」(以下、EJEPと表記)の下、技術協力プロジェクトとして、保育者向けの研修事業や教材作成、また保護者啓発などを通し「遊びを通じた学び」が、より多くの子どもたちに届けられようとしている。筆者は、当プロジェクトへかかわる機会に恵まれ、現地へ出向き参加した。本稿では、今日のエジプトにおける保育・幼児教育の現状とプロジェクトについて報告する。

2. エジプトの概要

エジプトは、アジア・アフリカ・欧州の結節点に位置する。国際海運の要所であるスエズ運河を有し、地政学的な要衝に位置する。エジプトは、2011年に始まった「アラブの春」と呼ばれる一連の民主化運動を受け、2011年と2013年に二度の政変が生じ、社会状況が不安定化したが、2014年のエルシーシ大統領就任以降、安定を取り戻しつつある。

現在、エジプトは高い出生率を背景に急激に人口が増加している。エジプトの合計特殊出生率（一人の女性が生涯に産む子供の数）は、世界平均が2.43人であるのに対し、3.37人（World Bank, 2017）の水準にあり、国連の推計に基づけば、2018年時点で約1億人の人口は、2050年には約1億6千万人に達することが見込まれている（国連 World Population Prospects, 2019）。急激な人口増により、特に若年人口が急増し、18歳以下は、総人口の約40%を占めるまでに拡大している（日本は15.9%）。初等教育に関して言えば、2007年時点で882万人だった小学校15の就学人口は、2017年に1,107万人に達し、10年間

で約25%増加した（CAPMAS, 2018a, pp.330-331）。このような人口増にあるにも関わらず、エジプトでは国土の90%以上が砂漠で居住に適する土地はナイル川沿いの6.8%の土地に限られている（CAPMAS, 2018b, p.15）。そのため、限られた学校施設に多くの児童が集中し、1クラスあたりの平均児童数は、46人に増加している。教育スペースの不足により、一部の学校では、午前と午後の2部制が取られている。¹⁾

3. エジプトの教育制度について

就学前教育を取り上げる前に、エジプトの教育制度を概観する。教育段階は、大学前教育と大学教育（高等教育）に二分される。大学教育（高等教育）は、学士4～5年、修士2～5年、博士課程と、医学系大学（6年）、アカデミー、技術短大等があり、高等教育省が管轄する。大学前教育は、幼稚園（2年）、小学校（6年）、中学校（3年）、高校から成る。初等教育（6年間）と、前期中等教育（3年間）の9年間が基礎教育であり、義務教育である。文書によっては、小学校と中学校の合計9年間を「小学校」と呼称していることもあるため、注意を要する。

また、所轄官庁の違いにより、教育・技術教育省・高等教育省が管轄する「普通教育」と、Al-Azhar機関最高委員会が管轄するAl-Azhar教育にも分類される。Al-Azhar教育は、宗教色が強く、Al-Azhar高校卒業者はAl-Azhar大学にしか入学出来ない。Al-Azhar機関最高委員会は教育・技術教育省からは独立しているが、首相管理下にあり、政府機関である。これら通常のコースとは別に、ノンフォーマル教育として、各種コミュニティ学校があり、教育・技術教育省が管轄している。約10%がAzhar教育を受けている。

以下、普通教育について詳述する。

エジプトの教育制度は、就学前教育（2年）、初等教育（6年）、前期中等教育（3年）、後期中等教育（3年）の2-6-3-3制である。幼稚園は、2年間であり、4～5歳の者が就学する。エジプトにおける就学前教育の歴史は、古くはKuttabというモスクに併設された男子対象の伝統教育から始まる。Kuttabではコーランを暗誦させつつ、文字・単

語を覚えさせていた。1996年には児童法（Child Law, No 12, 1996）が制定され、心身ともに健康で教育を受ける機会は子供の権利であると定めているが、kuttabの概念が一般家庭の就学前教育に対する期待であると考えられる。幼稚園の普及を教育・技術教育省は目指しているが予算が足りず、保育園4～5歳児童まで対象範囲を広げているのが現状である。

小学校は6年間である。6～8歳の間に入学することになってはいるが、ほとんど6歳で入学する。小学校には、卒業認定試験があり、この合格が中学校の入学要件となる。2年間合格出来ない者は、職業中学へ進学するか、それ以上の教育を受けないかの選択をする。一般教育には、政府校と私立校がある。政府校には全科目をアラビア語で行うアラビア学校が一般的であるが、Experimental Language Schoolsという実験校がある。Experimental Language Schoolsでは、理数科目を英語で教え、英語特別授業がある。また、入学時期はアラビア学校より1年遅れて、小学校では7歳からである。実験期間も20年を超えたことから、2014年には実験校という呼称から、Official Language School（政府言語学校）に改称された。政府言語学校（実験校）は、約200校あり、一般政府校は、約5,000校である。

中学校は、3年間であり、12～14歳時に入学するが、ほとんどが12歳で入学する。中学校にも政府言語学校があり、上述の小学校政府言語学校の特徴の他に、フランス語が第二外国語として教えられている。

中学校卒業後は、普通高校、技術高校（3～5年制）、職業学校（2～3年）の選択が出来る。

高校は、普通高校と技術高校、職業学校に分かれる。普通高校は、3年制であり、普通高校卒業が普通大学入学資格要件となる。技術高校は、3年制と5年制に分かれ、種類は工業高校、農業高校、商業高校、ホテル経営高校の4種類がある。技術高校卒業生も、技術系高等教育機関への入学が可能である。

小学校に何らかの理由で就学出来なかった、あるいは中退した者は、コミュニティ学校に通う。小学校は、名目上無償であるが、教科書代等は有償である。このため、貧しい家庭の児童は通えず、これが小学校中退や不就学的主要原因である。コミュニ

ティ学校は、完全無償であり、小学校を中退した児童が、これに通う。コミュニティ学校のカリキュラムは小学校と同じであり、卒業後は小学校卒業資格を発行され、卒業者の多くが中学校へ進学していると教育・技術教育省では考えている。²⁾

4. 就学前教育について

エジプトでは、0歳～4歳未満は教育・技術教育省が管轄する保育園、4歳～6歳未満は社会連帯省管轄の幼稚園の管轄となる。幼稚園就学率は、22%程度であり、保育園は7%程度となり、まだまだ利用率は低い。保育園は、運営形態により私立保育園とNGO保育園に大別され、私立保育園は、保育料が数千円～数万円と高額である為、富裕層が利用している。NGO保育園は、月額保育料が千円程度であることから、富裕層は利用していないと考えられる。政府幼稚園の保育料は、無料であるが、有料の私立幼稚園も増加している。

日本の就学前教育支援では、これまでNGO保育園や社会連帯省支局・本省に、青年海外協力隊（幼児教育）隊員を派遣している。³⁾

5. 保育園と幼稚園

保育園は、社会連帯省管轄で4歳未満の子供を保育する施設であり、発達支援を行う。一方、幼稚園は教育・技術教育省管轄で4歳以上6歳未満の児童の教育の場である。幼稚園数は未だ足りず、認可を受けた保育園が4歳以上6歳未満の児童も預かっている。保育園自体も少ないため、保育園が預かる4～6歳児は、ごく少数である。幼稚園は教育・技術教育省が統一教材を開発しているが、保育園に定型教材はなく、各園で準備する。4歳以上6歳未満児を預かる認可を受けた保育園でも、教育・技術教育省開発教材を購入することが可能である。

保育園ガイドラインが、施設要件や立地条件等を細かく規定しているのに対して、幼稚園カリキュラムでは、学習内容に焦点を絞っている。⁴⁾

昼食は、提供することになっているが、実態としては給食を提供している保育園は、ほとんどなく、弁当を持参させている。また、学習については、保育園によって大きな差があり、全く行っていない保育園もある。

6. エジプトの就学前教育の現状と課題

エジプトにおいて就学前教育を担う保育園は、義務教育で、且つ無償である基礎教育（小・中学校）とは異なり、保育料の支払いが求められる。このため、保育料が保育園へのアクセス率にも大きく影響しており、2015年の保育園在籍率は7.4%となっている（Egypt in Figure 2015 (Population)、及び社会連帯省2015年統計）。また、エジプト全国の11,901保育園の内、NGOが4,847園、私立が6,954園、その他100園である。（社会連帯省2015年統計）

社会連帯省によると、同国の保育園における課題として、乳幼児期の保育の重要性に対する認識不足、家庭貧困による保育料支払能力の不足、保育士の能力不足、地方行政の調整不足等を挙げている。また、私立保育園での利益重視の姿勢に対して、NGO保育園は、自立経営が困難な状況にあり、NGO保育園4,847園の内、2,524園が政府による補助金支給対象となっている（保育園全体の21.2%を占める。2015年社会連帯省統計）。このようにエジプトにおける保育園制度・体制は脆弱であり、保育士の能力不足等の要因とも相まって乳幼児の発達改善を促す保育園の質向上が求められている。⁴⁾

7. JICA就学前教育技術協力プロジェクトについて

(1) プロジェクトの背景

エジプトには、これまで約20年間に渡り70名以上の青年海外協力隊員（JICAボランティア）が保育・幼児教育分野に派遣されてきた。エジプトで活動を行うボランティアは、保育・幼児教育現場における「遊び」の重要性やより良い遊びの実践方法を、ワークショップやセミナーを通じて現場の先生方に伝えてきた。JICAボランティアが積み重ねてきた実績、及びエジプトの人々との相互信頼の上に展開された。⁵⁾

(2) プロジェクトについて

2016年2月、エルシーシ大統領は日本を公式訪問し、安倍晋三前首相と共同声明を発表した。その中で、教育・人材育成が国造りの基礎であり、未来に平和と繁栄の社会を築くため最も重要な事業であるとの信念に基づき、「エジプト・日本教育パートナーシップ（Egypt Japan Education Partnership）」を策定

し、教育分野で協力を促進することで一致した。⁶⁾

【プロジェクト概要】

- ・プロジェクト名：
 - (和) 就学前の教育と保育の質向上プロジェクト
 - (英) The Project for Quality Improvement of Early Childhood Development
- ・対象国名：エジプト・アラブ共和国
- ・プロジェクトサイト：カイロをプロジェクト拠点とし、5地域を普及対象地域とした。ポートサイド、スエズ、イスマイリア、カリオベイヤ (Kafr El Sheik, Port Said, Suez, Ismailia, Qalyubi))
- ・署名日 (実施合意)：2017年2月7日
- ・協力期間：2017年6月29日から2020年6月28日
- ・相手国機関名：
 - (和) 社会連帯省
 - (英) The Ministry of Social Solidarity (MOSS)EJEPでは、以下の12の分野に焦点を当てている。
 - ①日本に派遣されるエジプト人留学生・研修生数の拡大
 - ②エジプトでの日本式教育の導入
 - ③エジプトにおける「特活」の推進
 - ④日本式教育を適用するモデル校
 - ⑤教員・指導者の能力向上
 - ⑥学校運営及び学校における教育活動の改善
 - ⑦エジプトにおける体育科目及び音楽科目の推進
 - ⑧保育園及び幼稚園における「遊びを通じた学び」の推進
 - ⑨技術教育分野における協力
 - ⑩エジプト政府による教育分野の政策目標と策定
 - ⑪E-JUSTの推進
 - ⑫EJEPに関する運営委員会

なお、E-JUSTとは、エジプト日本科学技術大学のことで、2009年に締結された二国間協定によって設立されたものである。

EJEPの中では、保育園及び幼稚園における「遊びを通じた学び」の推進が掲げられている。多数を占める私立保育園が学力重視の運営方針をとる中、NGO保育園の保護者もこれに類する保育を望む傾向にあり、子どもの興味・関心を重視した「遊びを通じた学び」を導入・展開し、子どもたちの健やかな育ちを助長するものである。

EJEPの下、⑧保育園及び幼稚園における「遊び

を通じた学び」の推進における分野においては、1998年以降のJICAボランティアによる活動の蓄積を生かして、エジプト社会連帯省と協働し、保育園における保育の質向上を目指し、活動が実践された。「就学前の教育と保育の質向上プロジェクト」は、保育園に対して「遊びを通じた学び」の普及が2017年6月から開始され、以下の3つを内容の柱としてプロジェクトが進んだ。

- ①保育士の遊びを通じた学びの実施能力開発
- ②保育園の質を維持するためのモニタリングシステムの改善
- ③遊びを通じた学びを実施する環境の改善

プロジェクト対象地域である5地域 (ポートサイド・イスマイリア・スエズ・カリオベイヤ・カフルエルシェイク) の各地域からパイロット園を10園設定している。各園では、主にコーナー保育・砂遊び・絵本コーナーを取り入れられ、まずは保育の環境が、順次整備されていった。

特に、コーナー保育を実践するには、「保育室内に十分なスペースがない」という声から、日本の保育現場でよく見かける積み上げ式の机を活用する提案がされ、子どもの活動や遊びに合わせて、室内環境を変更できるよう、柔軟な対応が学習された。

さらに、保育者研修では、日本の保育士養成校のカリキュラムが参考にされ、全20科目の講義が行われた。講義終了後には、エジプト社会連帯省社会支局長から保育者研修修了証明書が授与される。

(3) 保育現場の声

以下は、保育現場からの声を記す。

- ・「子どもたちは、自分で好きな遊びを選び、それぞれに好きな遊びを楽しみます。子どもたちの中で人気のコーナーは、「ごっこコーナー」と「絵のコーナー」です。ごっこコーナーでは、お父さんやお母さん、コックさんや床屋さんなどのいろんな役になりきって遊んでいます。こうした遊びを通じ、子どもたちは社会の中の様々な人の役割を学んでいます。絵のコーナーでは、子どもたちはいろいろな絵を描いたり塗ったりするのを楽しんでいます。その中で、違う形や色が分かるようになり、それらを区別できるようになります。」⁷⁾
(モデル園園長)

・「登園時に泣いていた子どもが、笑顔で登園する

ようになった」(保育士)

～保育者研修から～

- ・「絵本や物語の読み聞かせを通し、子どもたちの想像力を豊かにしていくこと、コーナー保育を通し、子どもたちに楽しく様々なことを経験してもらうこと等を学び、実践していきたいと思っています。また、保育園や家庭でのこどもの様子を把握し、何らかの発達障害があると考えられる場合は、保護者と情報を共有し、ともに子どもの成長を考えていきたいです。」(保育士)
- ・「子どもの栄養」「障がいを持つ子ども」に関する講義から学んだことは、積極的に現場での保育に活かしていきます。」(保育士)
- ・「研修参加者と良好なコミュニケーションをとり、研修後のフォローアップを達成するため、カイロで実施される全ての研修に参加しました。」⁸⁾(社会連帯省職員)

上記の声にあるように、保育士らは、自発的に遊ぶ子どもの姿から、子どもの変化に気づき、子どもの心身を豊かに育むことの重要性を捉えられるようになったのである。さらに、現場の保育士のみならず、省庁関係者も情報共有を円滑にするべく、協力体制が見られている。

また、各モデル園には、アラビア語で書かれた絵本や本棚がJICAから届けられた。(写真1「はらぺこあおむし」など) 絵本を通じて、子どもたちに想像力を豊かにしながら文字に興味・関心を育んでいくことが理解された。⁷⁾



写真1 アラビア語で書かれた絵本

8. プロジェクト対象地域における研修について

日本から筆者をはじめ、他2名のメンバーがプロジェクトの活動を支援するため、保育者への講演と実技のプログラムを実施した。プログラムの内容としては、午前Ⅰ「子どもの健康づくり～食べて、動いて、よく寝よう!～」Ⅱ「幼児期の運動あそび」の2講演を行った。午後には「幼児期の運動指導」の実技を行い、実際に親子ふれあい体操をはじめと

する運動あそびを実践した。対象地域の研修では、100名以上の参加者があった。

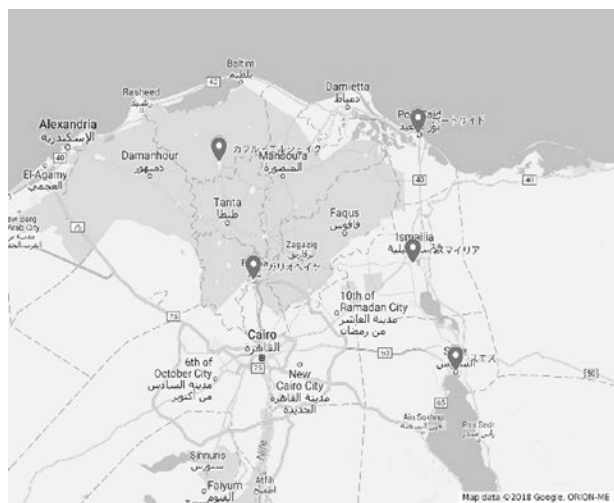


図1 プロジェクト対象地域

【日程】

2/27 (木) 0:30 羽田発

14:15 カイロ着 打ち合わせ

2/28 (金) 観光(ピラミッド・博物館・モスク等)

2/29 (土) 午前: 講演・

午後: 実技 (Qalyubia Moderaya)

3/ 1 (日) 午前: 講演・

午後: 実技 (Port Said Borivage)

3/ 2 (月) 保育園視察2園 (Port Said) カイロ移動

3/ 3 (火) 00:45 カイロ発 22:45 羽田着

【研修内容】

講演:

Ⅰ「子どもの健康づくり～食べて、動いて、よく寝よう!～」

Ⅱ「幼児期の運動あそび」

実技: 幼児期の運動指導

(1) 研修について

エジプトは、世界文明の発祥地であり、長らくアラブ世界及びアフリカ世界において指導的地位にあることもあり、エジプト国民は一般的に誇りが高いといわれている。その国民性からエジプト人は、話をじっと聴くことよりも自己主張することを好むという。講演の最中から、研修生の保育者ら同志が議論を始める一幕も多々あった。事前にJICA 専門家や

JICA ボランティア隊員からレクチャーを受けてはいたが、一人の質問が終わらないうちに我も我もとあちらこちらから意欲的に質問する姿には、まさしく異文化と共生していくことが求められると感じた。

また、国民の多くがイスラム教徒であるエジプトでは、特に断食の時期には日中は活動をせず、日が沈んでから活発に活動するため、生活リズムが夜型になるという。子どもの健康づくりには、生活リズムを整えるため、睡眠や栄養・運動は欠かせない。エジプトの文化と歩み寄りながらも、「遊びを通した学び」を実践していく上では、生活リズムの改善が大きな課題となっていくであろう。(写真2・写真3)



写真2 講演Ⅰ 2020.2.29



写真3 講演Ⅱ 2020.3.1

次に、実技研修においては、「ヒシャブ」というスカーフをまとっているため、運動にも制約があるのは拭えなかったが、一般的に明るく、温かな人々であることで知られるように、積極的に熱心に取り

組む姿があった。

特に、親子ふれあい体操では、早稲田大学 前橋明教授の協力を得たアラビア語版の親子ふれあい体操ポスターを作成し、紹介や実践ができるよう働きかけた。親子ふれあい体操は、子どもだけでなく、保護者自身も日頃の運動不足を解消しながら運動を楽しみ、我が子の成長を感じられ、親子の絆も深まる。家庭でも気軽に運動遊びを楽しむことができ、心地よい汗を流しながら、親子の会話も弾む「よさ」を伝えられた。(写真4・写真5)



写真4 実技Ⅰ 2020.2.29



写真5 実技Ⅱ 2020.3.1

(2) 保育園視察

プロジェクト対象地域であるポートサイドにおいて、保育園2園を視察した。エジプトにおいては、新型コロナウイルス感染者がまだ出ていない時期ではあったが、感染を心配し、子どもを登園させない保護者も多く、子どもの人数は通常より少なかった。

モデル園では、コーナー保育を導入し、子どもたちが主体的に活動に取り組む姿が見られた。

ごっこあそびができるように、段ボールや廃材を利用した手作りの冷蔵庫やレンジ台など、キッチンセットで遊ぶ姿があり、保育室の随所に工夫が見られた。(写真6)

保育士らは、手作りの保育教材を誇らしげに、次々と見せてくれた。日本では、よく見られる保育教材であるが、エジプトにおいては、まだ特別感があつた。



写真6 コーナー保育

一方、年長児クラスでは、旧態依然とした環境の中、ブロックで遊んでいた。コーナー保育の導入は、教育的なエジプトにおいて如何に画期的なことであったのかを、実感する場面であった。(写真7)

プロジェクトからは、体重計と身長計が供与され、測定方法や記録の取り方を指導するワークショップが実施された。JICAボランティア隊員が



写真7 年長児クラス

モデル園において、健康管理の取り組みを支援している。¹¹⁾ (写真8)



写真8 身長計

また、子どもたちは、持参した菓子パンやお菓子を食事として食べていることが多く、栄養のバランスのとれた食事をとることの大切さや子どもたちの健康について理解を深める取り組みが行われていた。

実際に視察時においても、タッパーウェアの中には、菓子パン1ヶだけしか入っておらず、朝食として食べている様子があった。

歯磨きや栄養指導のシートは、JICAボランティア隊員の手作りであり、子どもたちや保護者へ啓発活動をしている。(写真9・写真10)

子どもたちの自発的な遊びを保障する園庭の環境として、プロジェクトが社会連帯省と共に導入したのが砂場である。プロジェクト対象園の85%以上が保有している園庭を最大限に活かし、子どもたち一人ひとりの興味・関心に応じた自発的な遊びを促進していくには、砂遊びが最適であると検討されたのである。砂遊びは、エジプトにおいて、あまり取り入れられてこなかった。当初は、砂で汚れることを嫌った保育士や保護者であったが、プロジェクト専門家による導入や説明により、そのねらいを学び、

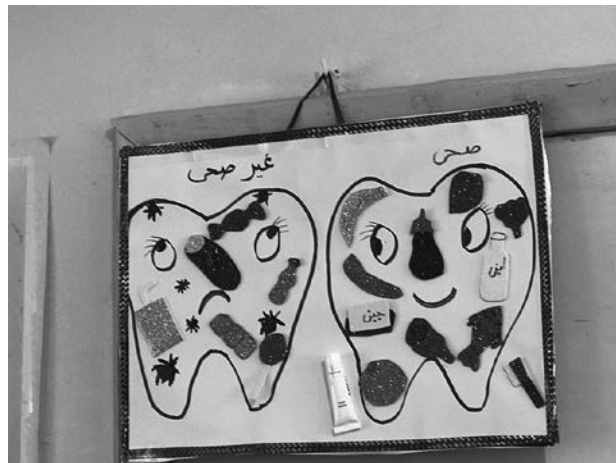


写真9 歯磨き指導



写真10 栄養指導（スナック菓子袋やジュース類）

カリキュラムとの繋がりが理解できた。実際の砂場設置や砂遊び導入の前には、各対象園においては、JICA 専門家から研修を受けた保育者らが保護者へ砂遊びの教育的意義を説明し、保護者への理解を求めた。⁸⁾

プロジェクトの対象保育園のうち、12園がプロジェクト予算で、5園が園独自の予算で砂場を設置した。他のプロジェクト対象園においても、新規設置や既存の砂場を改良し、子どもたちが伸び伸びとした砂遊びの機会が持てるようになっていくことが期待されている。¹¹⁾ (写真11)

さらに、設置後は砂場を清潔かつ安全な環境に保つための環境整備は欠かせず、砂場整備のチェック表やレポートを各園から提出してもらうなど、保育者らの日々の努力が求められ、JICA が支援を続けているのである。¹²⁾



写真11 砂遊び

9. おわりに

本稿では、エジプトにおける就学前の教育と保育について概観し、特にJICAの「就学前の教育と保育の質向上プロジェクト」の取り組みについて一部を紹介した。エジプトは、文盲率、学歴社会の教育、教育へのアクセスの男女差、地域差、社会・経済差、教員の低給与など、多くの教育の諸問題を抱えながらも、解決の努力を重ねている。今後も、エジプトにおける日本の保育や就学前教育の展開を注目していきたい。

今回異国の地で、改めて日本の保育のよさを顧みることができた。しかしながら、日本の就学前教育では、子ども一人ひとりの主体性が重んじられるが、就学後には協働する力は養われる反面、個として力が弱くなることを実感させられる。

北村（2017）は、日本型教育の海外展開に対する期待として、「どのような『日本型教育』が海外で求められているのかを知ることは、日本の教育の強みを活かして国際社会の安定や発展に資する人材を育成していくうえで、大いに参考になるはずです。そして、そのことは日本社会においても「（必ずしも経済的な意味だけにとらわれない）豊かさ」の実現に貢献する次世代を育てることに繋がるはずです。」と述べている。¹³⁾

世界の子どもたちの人権を守るため、11月20日は「世界子どもの日」として、「子どもの権利条約」が国連総会で採択された日である。海外との交流や社会貢献はもちろんのこと、さらに子どもたちの健全育成に向け、グローバルな視点を持った保育者の養成が求められる。

謝辞

今回、貴重な体験の機会を与えていただいた早稲田大学人間科学学術院 前橋明教授はじめ、JICA技術協力プロジェクト「就学前教育、保育改善」チーフアドバイザー 神谷哲郎氏、JICA技術協力プロジェクト専門家（2017.6～2020.6）長谷川大氏、通訳のバサントさん、JICAボランティア隊員の皆様に感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 独立行政法人 国際協力機構 (JICA), (2020)「エジプトにおける協力」
〈https://www.jica.go.jp/publication/pamph/ku57pq00002iqnxw-att/jica_egypt_pamphlet.pdf〉
2021/1/12 最終閲覧
- 2) 独立行政法人 国際協力機構 (JICA), /パデコ (2016)「エジプト・アラブ共和国 基礎教育分野にかかる情報収集・確認調査報告書」
- 3) 同上, p.96
- 4) 同上, pp.96-97
- 5) 独立行政法人 国際協力機構 (JICA), 「就学前の教育と保育の質向上プロジェクト」
〈<https://www.jica.go.jp/project/egypt/006/outline/index.html>〉 2021/1/12 最終閲覧
- 6) 外務省, (2016)「エジプト・日本教育パートナーシップ」
〈<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000136266.pdf>〉
2021/1/12 最終閲覧
- 7) 独立行政法人 国際協力機構 (JICA), 「就学前の教育と保育の質向上プロジェクト」, ニューズレター 2018年6月号
- 8) 同上, ニューズレター 2018年9月号
- 9) 同上, ニューズレター 2018年12月号
- 10) 同上, ニューズレター 2019年3月号
- 11) 同上, ニューズレター 2019年6月号
- 12) 同上, ニューズレター 2019年10月号
- 13) 北村友人, (2017) 日本型教育の海外展開に対する期待
〈<https://www.eduport.mext.go.jp/column/2017/01/kitamura.html>〉 2021/01/12 最終閲覧
- 14) 文部科学省, (2017)「エジプトにおける教育の状況とエジプト日本教育パートナーシップ」
〈<https://www.eduport.mext.go.jp/column/2017/03/EJEP.html>〉 2021/1/12 最終閲覧
- 15) 星野有希枝, (2017)「エジプトにおける教育の状況とエジプト日本教育パートナーシップ」
〈<https://www.eduport.mext.go.jp/column/2017/03/EJEP.html>〉 2021/1/10 最終閲覧
- 16) 長谷川大, (2020)「エジプトにおけるJICA 技術協力プロジェクトの取り組み—就学前の教育と保育の質向上プロジェクト—」『レジャー・レクリエーション研究大92号第50回記念大会発表論文集』, 26-29.
- 17) 川村幹, (2019)「エジプト・アラブ共和国 就学前教育の現状と課題—JICA技術協力プロジェクトインターン経験から—」『鳴門教育大学国際教育協力研究第13号』, 67-71.
- 18) 中島悠介, (2017) エジプトにおける「特別活動」を通じた日本式教育の導入と課題に関する考察—現地報道を手がかりに—『大阪大谷大学教育研究43号』, 47-55.
- 19) 淵本幸嗣, (2019)「福井大学連合教職大学院におけるエジプト教員研修」『福井大学連合教職大学院教師教育研究第12巻』, 53-71.